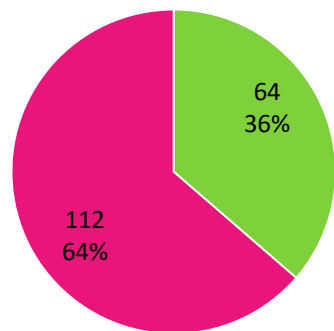


平成29年度卓越研究員事業のアンケート結果（卓越研究員候補者の当事者間交渉状況①）

平成29年度卓越研究員事業に申請し、卓越研究員候補者となった者、および平成28年度卓越研究員事業に申請して卓越研究員候補者となった者のうち、平成29年度も当事者間交渉を継続する研究者に対して、当事者間交渉状況等についてアンケートを実施
(H29.10実施 対象者数：247名、回答者数：176名（回答率71%）)

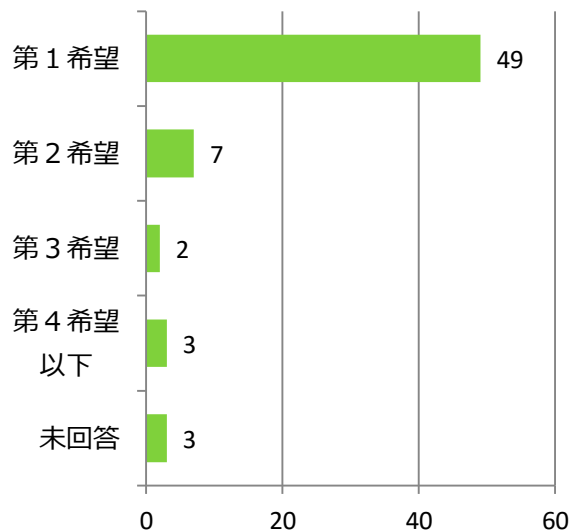
○当事者間交渉状況

<当事者間交渉状況>



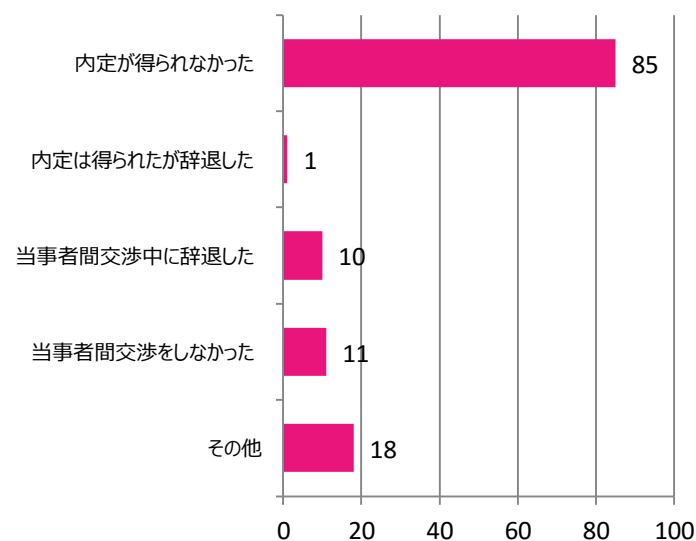
- 1. 当事者間交渉が完了し、採用が決定した
- 2. 当事者間交渉が完了しなかった

<採用先の希望順位>



<当事者間交渉が完了しなかった理由>

【複数回答可】

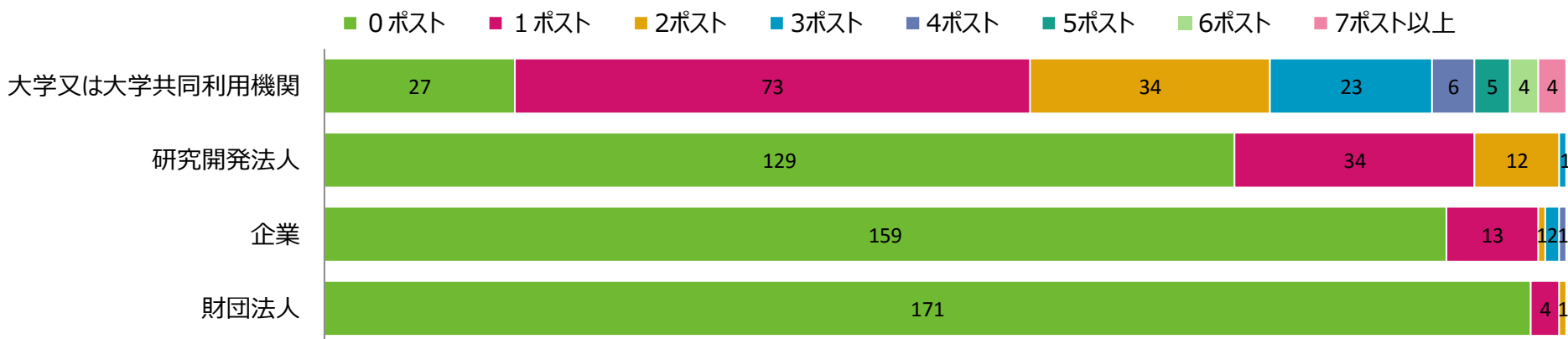


その他の主な内容

- ・卓越研究員事業とは別のポストに内定したため
- ・機関へ連絡したが返信がないまま、交渉終了したことがHP上で告知された
- ・既に内定者が決まっていた。
- ・アカデミック職でテニュアトラック助教に魅力が無い上に数が少なすぎ など

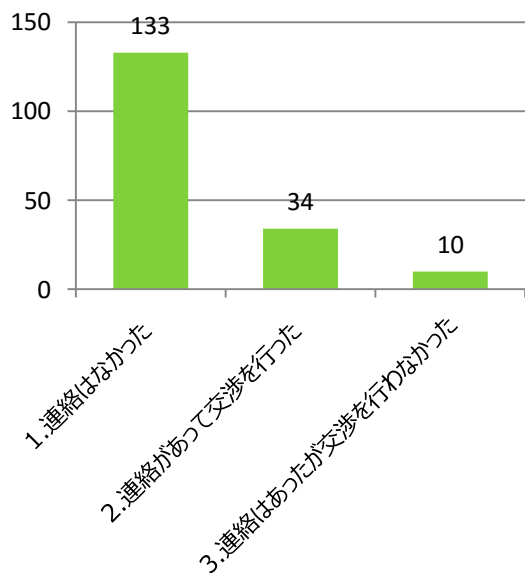
平成29年度卓越研究員事業のアンケート結果（卓越研究員候補者の当事者間交渉状況②）

＜当事者間交渉を行った機関別ポスト数＞



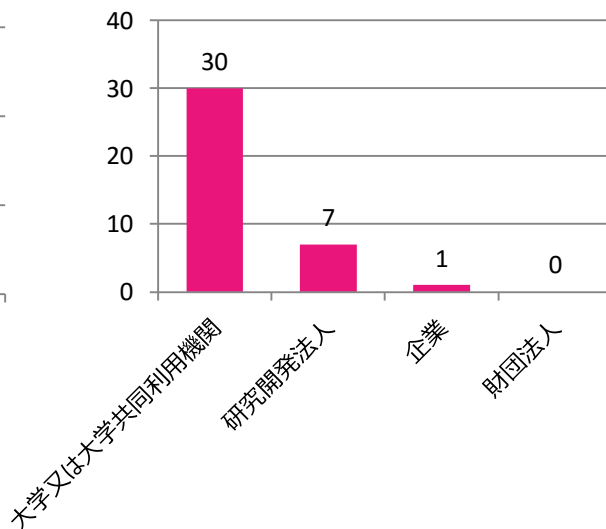
＜機関側からの連絡の有無＞

【複数回答可】



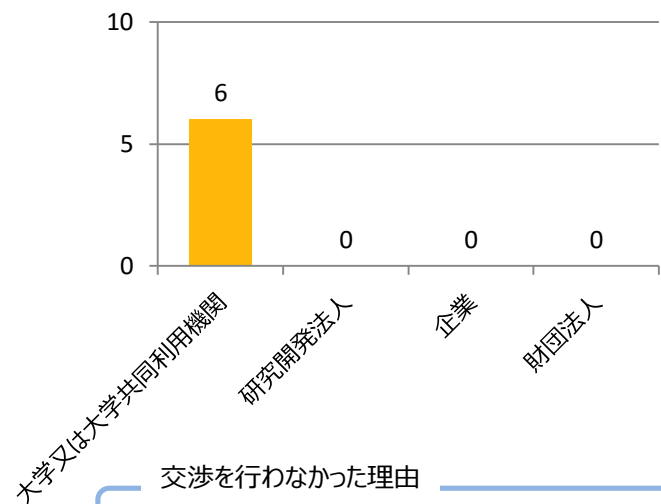
＜連絡があって交渉を行ったポストの機関種別＞

【複数回答可】



＜連絡があったが交渉を行わなかったポストの機関種別＞

【複数回答可】

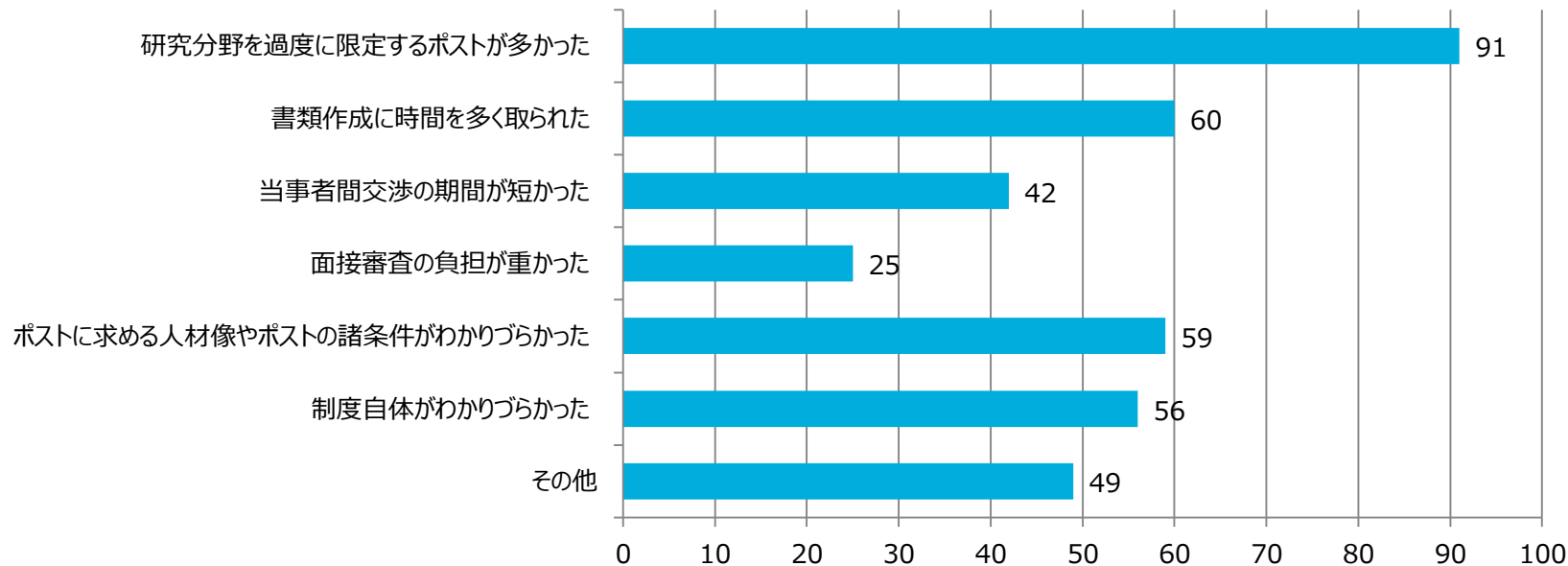


交渉を行わなかった理由

- ・他の機関に採用（内定）されたため
- ・希望する職種ではなかった
- ・どうしたら良いかが分からなかった など

＜当事者間交渉で困ったこと＞

【複数回答可】



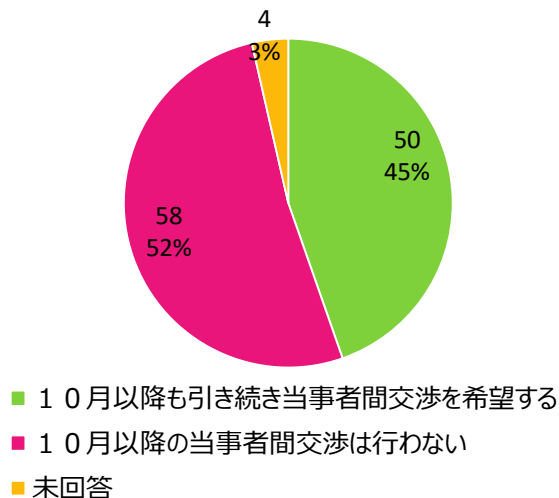
その他の主な内容

- 自身の専門分野やテーマに合うポストが少ない（12件）
- もともと採用意思が無いと思われる等、不透明・不公正な選考を行う機関がある（10件）
- 事前連絡が必要で希望ポストに申し込めないなど、制度が複雑（5件）
- スケジュール（採用選考の時間が長い、候補者決定後のポストへの連絡期間が短い）（4件）
- 希望の雇用条件（職位、雇用形態）のポストが少ない（3件）
- 書類作成が二度手間（3件）
- 機関に申込や問い合わせをしても返信が無い（3件）
- 機関の面接選考に進めなかった（面接の機会をもらえなかった）（3件）
- 採用条件等、機関からの情報が十分に得られなかった（2件）

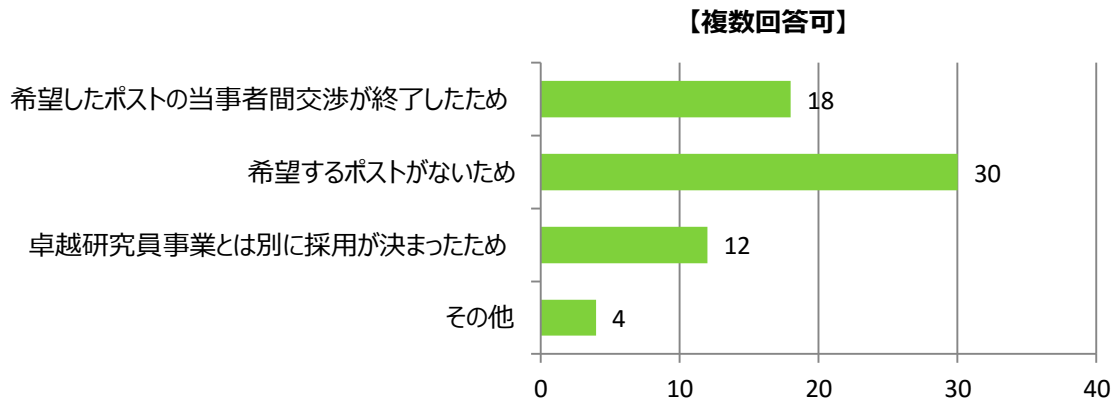
平成29年度卓越研究員事業のアンケート結果（卓越研究員候補者の当事者間交渉状況④）

○今後の予定 ※質問対象者：当事者間交渉が完了していないと回答した112名

<10月以降の当事者間交渉希望状況>



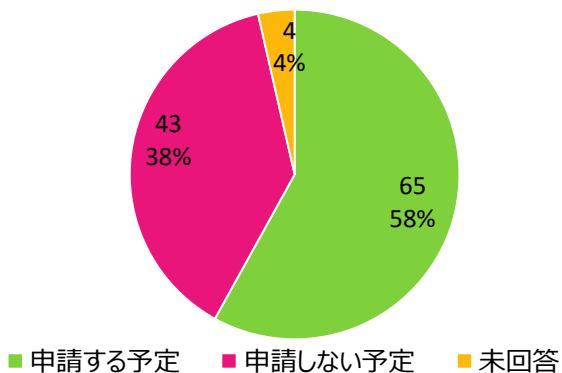
<10月以降当事者間交渉を行わない理由>



交渉を行わない主な理由

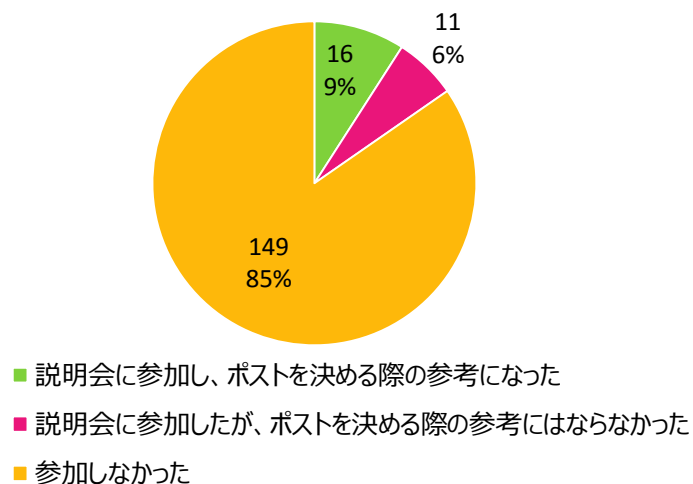
・応募出来るポストがもう存在しない など

<来年度の申請希望状況>



○その他

<平成29年度若手研究者向け説明会への参加状況>



申請しない主な理由

- ・別の公募ポストに採用が決まったため
- ・申請要件の年齢上限を超えるため
- ・負担に比してメリットが少ないため
- ・ポストに選ばれる可能性がないと感じるため
- ・制度の趣旨、選考プロセスが不明瞭であるため
- ・既に採用予定者が決定していると思われるため など

平成29年度卓越研究員事業のアンケート結果（卓越研究員候補者の当事者間交渉状況⑤）

○主な意見（改善希望事項等）

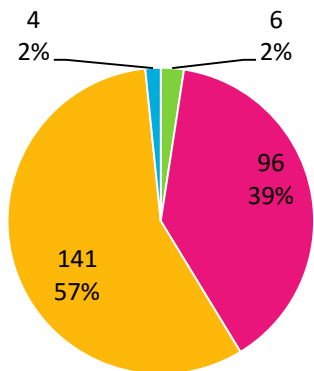
	意見分類	主な内容
A	制度改善全般に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ○機関に採用されなかった候補者は翌年度以降も一定期間当事者間交渉に参加できるようにすべき。（11件） ○制度の認知度を上げる、機関のポスト提示可能時期を工夫するなど、より多くのポストが提示されるようにすべき。（8件） ○機関に採用されなくても研究費を配分する、表彰する、業績に出来るようにするなど、当事者間交渉がうまく行かなかった候補者にもメリットがあると良い。（8件） ○対象となる研究者の年齢制限を引き上げるべき。（3件） ○当事者間交渉がうまくいかなかった候補者をサポートする制度があると良い。（2件） ○対象となる年齢層が広く、これに対応して業績の量も様々であることから、どういった研究者を採用したいのかより具体的に公募要領等で提示した方が良い。（2件） ○若手研究者の独立性を確保するための別の取組、又は工夫が必要（2件） ○「卓越研究員」という名称が制度と合っていないため改めるべき。（2件）
B	ポスト・当事者間交渉に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ○機関採用において、一般公募と変わらない扱いとなる場合があり、事業のメリットが感じられない。（12件） ○ポストの当事者間交渉において、機関毎に異なる申請書を求めることは研究者の負担となるため、卓越研究員事業の申請書類を活用して欲しい。（11件） ○候補者決定前から当事者間交渉を開始すること（事前連絡要）は廃止すべき。（11件） ○既に採用予定者が決定していると疑われるポストもあり、公平公正な当事者間交渉とすべきでないか。（10件） ○任期付きポストであったり、独立した環境でなく与えられたテーマの研究を行う必要があるなど、事業の趣旨・理念と異なるポストが提示されている。（9件） ○ポストの研究分野や研究内容を過度に限定しすぎている。（8件） ○機関が採用後の研究環境、雇用条件等に関する情報を提示するようにすべき。（5件） ○候補者決定から、ポストの申込締め切りまでが短すぎる。（3件） ○ポスト提示側の機関が卓越研究員制度について十分理解していないと感じる。（3件） ○応募しても選考結果の連絡がないといった機関があるため、機関の当事者間交渉の方法を改善して欲しい。（2件）
C	経費に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ○卓越研究員の人件費は国が負担すべき。（5件） ○補助金を年度を跨いで使用できると良い。（2件）

平成29年度卓越研究員事業のアンケート結果（卓越研究員候補者の当事者間交渉状況⑥）

○参考：卓越研究員候補者の属性

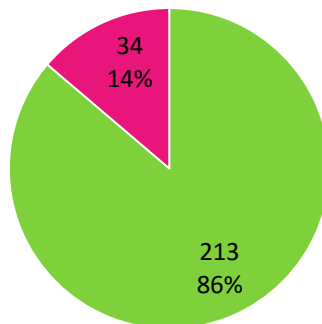
※年齢層、性別、研究分野、所属機関（申請時点）は実績値を記載

<年齢層>



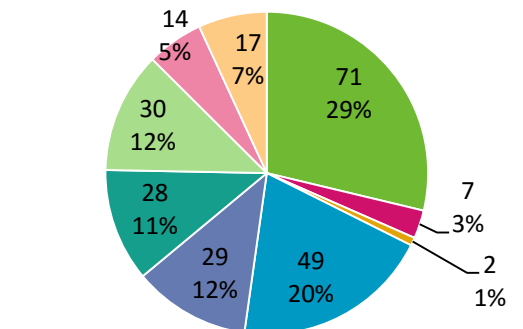
■ 20代 ■ 30代前半 ■ 30代後半 ■ 40代

<性別>



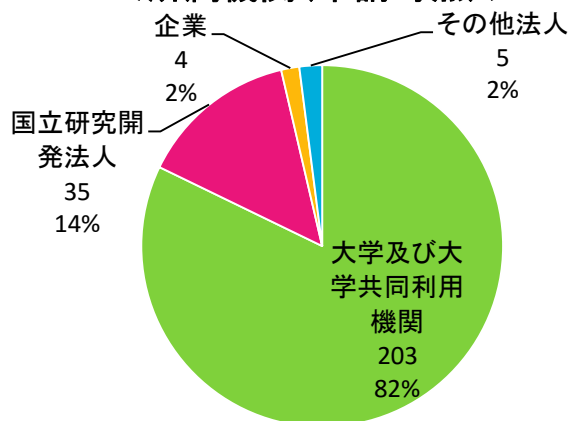
■ 男性 ■ 女性

<研究分野>

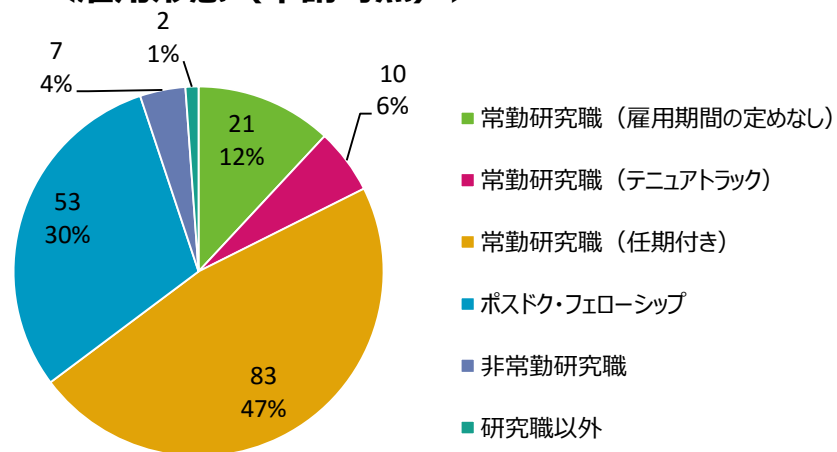


■ 総合 ■ 数物系科学 ■ 生物学 ■ 化学 ■ 工学 ■ 農学 ■ 社会科学 ■ 人文科学 ■ 医歯薬学

<所属機関(申請時点)>



<雇用形態(申請時点)>



■ 常勤研究職（雇用期間の定めなし）
 ■ 常勤研究職（テニュアトラック）
 ■ 常勤研究職（任期付き）
 ■ ポストク・フェローシップ
 ■ 非常勤研究職
 ■ 研究職以外